



教育目標 誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり

「同じ姿」を見る

校長 白田 敏幸

本校の学校目標「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」については、保護者の皆様にはPTA総会等で、また、地域の方々には学校だよりや学校運営協議会を通してお伝えしてきている。①一人一人が自分らしく生きていけるように環境を整えること②「子供を育てる」から「子供が自ら育つ、成長できる」環境を創っていくということである。詳細は、本校HPの「学校だより 4月号」を参照いただきたい。

本校で、目標(目指すところ)を共有することと共に大事にしているのが、「子供の姿を共有する(同じ姿を見る)」ということである。一般的に学校の様子を伝える手段として活用しているのが、授業参観や各種発表会、HPでの写真掲載等である。それらでは、子供たちの素晴らしい姿、成長した姿をご覧いただく場合が多い。(子供のいい姿を見ていただくことは、それはそれで必要なことである。)参観日や発表会では、教員も子供たちも多少緊張しながら、何とかいい姿を見てもらおうと努力する。お客様が来校した時には、教室がいつもより格段にきれいになっているのもそのひとつである。しかし、子供の「生の姿」「日常の姿」を共有しないことには、学校と保護者・地域が同じ方向を向いて課題を解決したり、学校を創ったりしていくことは難しいのではないかと考えている。

そこで本校では、保護者の方限定ではあるが、「動画の配信」をほぼ毎日行っている。10分程度の動画ではあるが、特別な姿ではなく、基本的には普通の授業風景である。普段の様子なので、がんばっているところだけではない。気分が乗らずうつろな目をしていたり、友達と言い争いになってしまい、勉強に向かえなかったりするときもある。また、時には興奮しすぎて、大きな声を出してしまっている場面もある。

◇動画を配信しているねらいとしては、大きく2つあり、

①子供や学校の様子を見ていただく。(家庭での話題の一つとしてもらう。)

②行動や表情から子供の変化に気づいていただく。(あれ、うちの子、最近おかしいな?)

ことである。動画の配信がきっかけで、日常的に来校してくださる保護者の方が増えてきた。「自分の子供の様子が家と違う。」「子供の指導に担任の先生が困っている。」中には、「うちの子供の学年の動画が少ないのは、何かあるのかもしれない。」様々な理由があるとは思いますが、多くの方が授業参観ではなく、「学習支援」に来てくださる。保護者の方々には、心から感謝申し上げたい。時には、4人の子供たちに、担任、支援員、保護者の方2人。マンツーマンで子供の支援にあたることができる時もある。子供たちは、自分の親ではない大人から教えてもらうと、意外と素直に聞けるようである。

今後めざしているのは、「できるだけ多く、地域の方々からもご来校いただく」ことである。以前地域の方から、「校長先生、学校さ来てけろって言うげどよ、学校って敷居高くて、ながなが行がんにえのよねえ。」という言葉をいただいた。「地域と共にある学校づくり」を目指している我々にとっては非常に重い言葉であった。多くの地域の方から来校いただけるようになれば、救われる子供がたくさんいる。さらには、地域とのつながりもさらに強くなっていくと考えている。生活科や総合的な学習の時間で「地域のよさを知る活動」がよく行われるが、「地域のよさ」の最たるものが「地域の方々」だと思っている。行事や特別な活動があるときだけではなく、日常的に保護者の方も含め、地域の方々と接する機会があれば、子供たちの「地域愛」は必然的に育まれるはずである。

できるだけたくさんの方からご来校をお待ちしています。「ちょっと時間空いだから。」「子供だと話すったいがら。」どんな理由でも結構ですので、ご来校くださり、子供たちと接していただきたいのです。いい姿だけでなく、「困っている子供の姿」も共有してくださり、課題解決のために「それぞれの立場でできること」をやっていたら幸いです。校長として、「敷居の高くない」学校づくりに努めて参りたいと考えています。

第2回 学校運営協議会 報告

10月28日(月)に第2回学校運営協議会を開催しました。

今回は、「学校評価の報告」と「谷地西部小学校における課題とその解決に向けて『課題となっていること』と『学校としてすべきこと、家庭・地域としてできること』」について話し合いました。

学校評価の報告については、学校の実態を知っていただくこと、今後の学校経営についてのヒントをたくさんいただくことができました。また、大人から見た子供の姿と子供たちの自己評価に大きな意識の違いがあることから、再度気を付けて子供一人一人を見取っていくことの大切さについて再確認したところです。

熟議では、谷地西部小の強みである「少人数」が、弱みでもあるという課題が出されました。学校の実態や家庭・地域での実態を確認しながら、大人としてどのように子供に接していくのがいいのかについて意見交換をしました。

以下、グループ熟議の中で出されたことです。

- ・「少人数」ということが「よさ」でもあり「課題」でもある。
- ・子供との距離を考えながら見守ること(大人の「出」を考えたい。)
- ・宿題をする際、できるだけ親も関わっていく。
- ・地域の大人が、「自分の子供のように叱ることができる大人」になることが地域の中でのつながりを深めていく。
- ・学校は子供たちにとって、「勉強する場」「伸び伸びと過ごせる場」であってほしい。
- ・家庭は、子供たちにとって「ガス抜き」できる場でありたい。
- ・子供たちを肯定的に見ていきたい。

3回目は、2月25日(火)に実施する予定です。そこでは、課題解決のためにそれぞれの立場で実際何ができるかについてさらに具体的に話し合っていく予定です。

小さい秋・おいしい秋 みい~つけた!

~1・2年生活科 焼きイモ体験・秋探し~

生活科で育てたサツマイモを使って、朝日少年自然の家に焼きイモ体験に行ってきました。子供たちは、前もって、焼きイモの準備(新聞紙やアルミホイルでイモを包む)をしました。自分たちが育てたイモで焼きイモをするのは最高のように、「楽しい!」「おいしい!」という声が山の中に響いていました。

また、昨年に引き続き多くの保護者の方が参加してくださいました。本当にありがとうございます。これからもご協力よろしく願いいたします。



授業参観・PTA親子研修会・親子給食

11月15日(金)、2校時に授業参観、3・4校時にPTA親子研修会、お昼は親子給食、児童の下校後に学級懇談会を実施しました。たくさんの内容を詰め込んだ1日となりました。授業参観では、本校で実施している教科担任の授業を参観していただいた後に、1・2年生、3年生以上それぞれに分かれて、体育の時間に練習した踊りを披露しました。かわいらしく、そして、力強く踊る姿とともに、体育館中に子供たちの大きな掛け声が響き渡りました。親子給食では、親子一緒に給食を食べていただきました。以前は、1年生が親子給食を実施していたようですが、今年度は、全校で実施しました。給食後、保護者の皆様には、石山栄養教諭から食に関する講話を聞いていただきました。PTA親子研修会では「谷地凧づくり・凧あげ」に親子で挑戦しました。

3年生以上は西部小ソーラン



1・2年生は「ジャンボリーミッキー」



1・2年生 体育



5・6年 音楽



4年生 理科



PTA親子行事「凧作り・凧あげ」



3年生 社会科



1・2年生は教室で、3年生以上は食堂で親子給食を行いました。





トライアングルコーナー

6年 学年行事 ～小学校最後の学年行事 親子旅行～

10月12日(土)～13日(日)に6年生の親子旅行へ行って来ました。オニコウベスキー場のペンションに宿泊し、翌日に前森高原で陶芸体験をして、帰りは新庄駅から6年生だけで電車に乗り、さくらんぼ東根駅で下車するという日程でした。

ペンションは貸し切りで、人目を気にする事なく親子共々楽しい時間を過ごす事が出来ました。子供たちは「みんなと夜更かししたのが楽しかった。」と話していました。前森高原での陶芸体験では、2名の講師より教えていただき、手びねりのお皿作りをしました。建物の周りに生えている葉っぱを使用し模様をつけました。それぞれの個性がでてとても素敵なお皿が出来ました。2か月後の焼き上がりが楽しみです。その後、新庄駅まで移動し、切符の買い方や時刻表・電光掲示板の見え方を教え、6年生だけで電車に乗りました。親からは「疲れて寝過ぎるのではないか。」「違った駅で降りるのではないか。」等、心配する声があがりましたが、無事予定の駅で再会できました。車内では迷い込んだトンボを捕まえ、車掌さんから窓を開けてもらったようです。いつもと変わらない5人で楽しんだようでした。今回の旅行を通して、いつのまにかたくましく成長していると実感しました。あと半年ほどで学校生活は終わってしまいますが、今回の旅行が少しでもよい思い出として残ってくれたら嬉しく思います。ご協力いただきました保護者の皆様、ありがとうございました。(6学年委員長 小野 洋介)



5年 学年行事 ～親子で芋煮会～

5年生の学年行事は、最上川河川敷で「芋煮会」をしました。当日、朝はくもっていましたが、雨も降ることもなく芋煮会日和でした。

2つの鍋で2班に分かれて実施しました。自分たちでかまどの薪に火を付けて、子供たちが具材を切り分け、沸騰した鍋の中に具材を入れ、薪の煙が目にしみるようでしたが、時間がたつとしょうゆのいい匂いがしてきました。親子みんなで食べるあつあつの芋煮は格別においしかったです。とても素敵な思い出になりました。(5学年委員長 宇野 博幸)

